

## 西正寺キリシタン墓碑群

西正寺墓地は島原半島の中ほどにあります。記録によると、この地域では 1588 年から 1595 年の間にイエズス会のセミナリヨが 2 回開かれました。（当時はセミナリヨやコレジヨ、さらには教会までもが、その時々における大名たちのキリスト教に対する態度に応じて場所を頻繁に移していました。）

この場所の 4 基のキリシタン墓碑は、一か所に集められ一列に並べられています。4 基のうち、最も保存状態が良いのは、デイサイトで作られた長さ 105cm の柱型の石が平置きされているものです。上部には緩やかな丸みがつけられており、正面には花十字（十字の各先端が三位一体を表す三枚の花弁で飾られた十字架）が刻まれています。別の 2 基は柱型の上部と台座部分が一体の石から作られているのが特徴的です。その片方にはかなり激しく風化した花十字が見て取れます。最も風化の激しい 4 基目は平板型で、これもデイサイトで作られています。

## 日本のキリシタン墓碑について

日本におけるキリスト教の初期につくられたキリシタン墓碑として確認されている 192 基のうち、146 基が長崎県にあり、その全てが 17 世紀初期のもので、（1581 年につくられた日本で最も古いキリシタン墓碑は、大阪市に近い四條畷市にあります。）長崎地域のキリシタン墓碑は、当時のヨーロッパの墓のデザインを反映し、平板型・切妻型・半円柱型・角柱型のいずれかに整形した石を平置きにしたものがほとんどです。仏教の墓石には漢字数文字からなる故人の死後の名前（戒名）が刻まれるのに対し、キリスト教の墓石には、多くの場合、西洋式の洗礼名が記されます。花十字や横棒が二本の形十字、イエス・キリストの名前の略語である「HIS」という 3 文字で飾られていることもあります。石の墓標は高級品だったため、墓碑で吊われているのは金銭と権力に恵まれた人々だったと考えて良いでしょう。キリスト教が禁止された後、このような平置き墓石の中には、くり抜かれて手を洗うための手水鉢にされたり、石垣に組み込まれたり、地中に埋められたりして、仏教の建造物の一部に転用されたものもありました。長崎のキリシタン墓碑は、ほとんどが当初置かれた場所には残っていないものの、もとの設置場所の付近で発見されることがよくあります。